



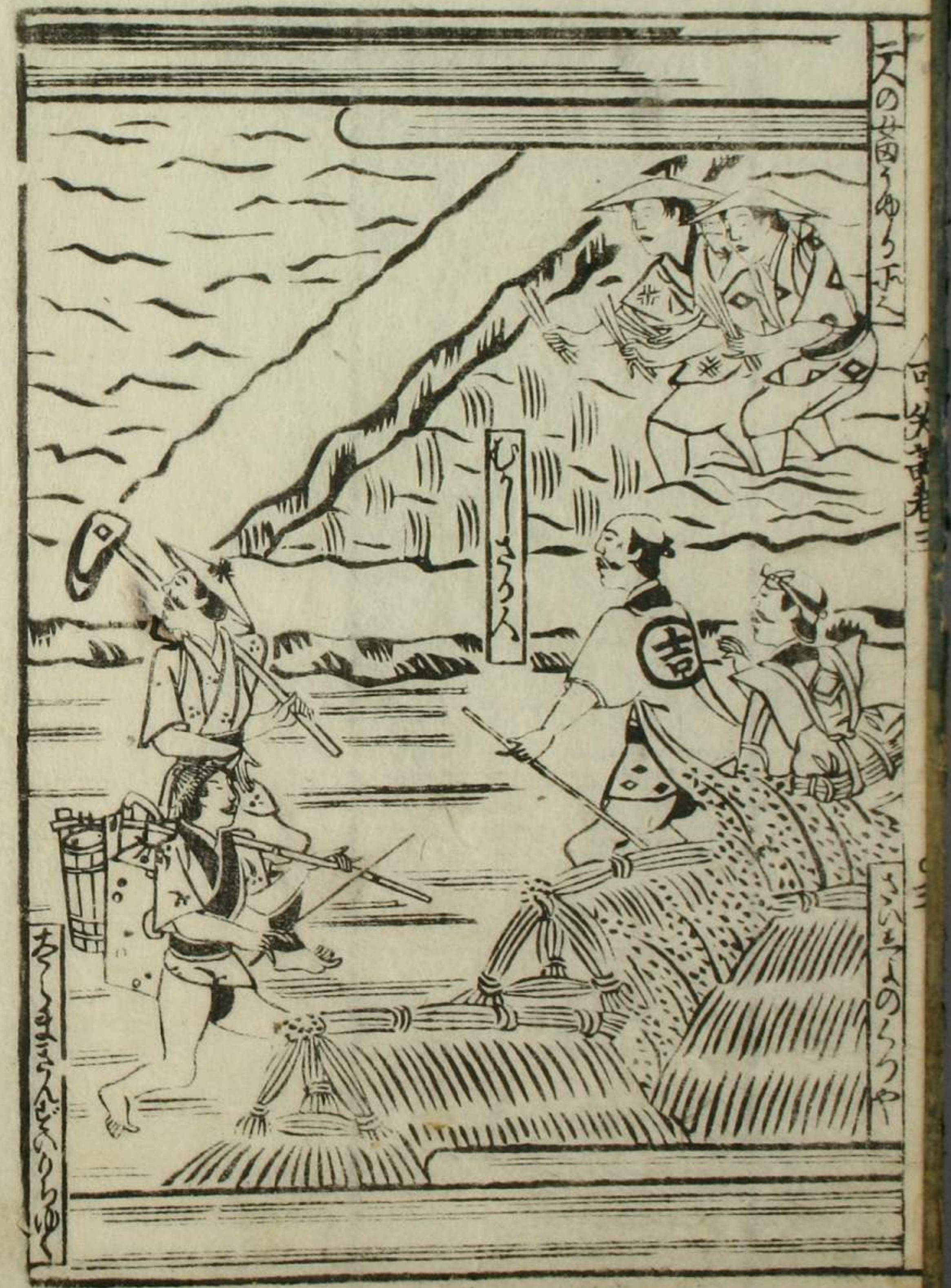
可笑紀事二第三

ひくはかくとひのまの主君とてす。圓ふと
ゆきう。筆圖をとれりめまねほしもぬり
よりてやまとすとあく。我やくとをもとひ
忍るはす。圓ふとまく。筆圖をとせんと。百姓町人
ちとくら。もとて。富家やうじのひは玉うりひば
ひもとくと。けまとも。と。酒と。筆と。ね遠もん。ゆうて
ゆもとれ。裏殿うちり。もとく。と。酒と。筆と。き
筆方と。酒殿の侍と。うりもし。まとあへ
筆と。りて。筆家やうじと。もと。筆。侍が富家な
ま。百度よき。假とけど。せめげうて。筆す。まとあへ

門 13
1915
2



仰る程事どう。田島もつもをもとまく年月おやま
と。月だけあとはまがまやひびき引てゆるに。故
が成らる。されば性ゆるやうふみ穀、嘗て也。但か
よ。爲さるをもとと。待よりうかとあすき程事
なり。もうひくとましむ。あめふまで。見る間も
待よりは役どり。ひづき見ゆて。あつひる。百姓
また黙暮。くる百姓たとちかう付と。田島ふ穀との
ど。続よう。待乃つまうとなり。え。待り。毎年まし
れ。お春來。あめん。筑たとへ。から。飲食相よ五
まえ。うち。に。熟すまく。小穀人。高人。食をま
細。あまき。ひかげ。也。從前。よ。多事。又。竹。柳
あれ。のと。うらで。も。家。も。も。相。料。代。今。と。歴



蒙古語卷二

者も今ひづるなり。うとうとすありまとう
がひづる。かずかず此方至る。あまのとくをあれ。あま
あまとれねどりてあり。もももももももももももももも
あまひづる。まえも。またたゞれ。せんきのひづる。がむせん
とのひづる。まいせあらはる。おとほれ。まてとせきのね
ひづる。まちり。おとせ。山ちゆ。おとせ。衆物も。これ
うれ。よ愁心。む。仁極。と。もう。おとせ。や。とも能事。く
たまよ。れ。う。おとせ。不。おとせ。ふ。まく。下。方。民
あ。おとせ。おとせ。上。と。見。おとせ。おとせ。よ。おとせ。ほ
れ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。
おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。

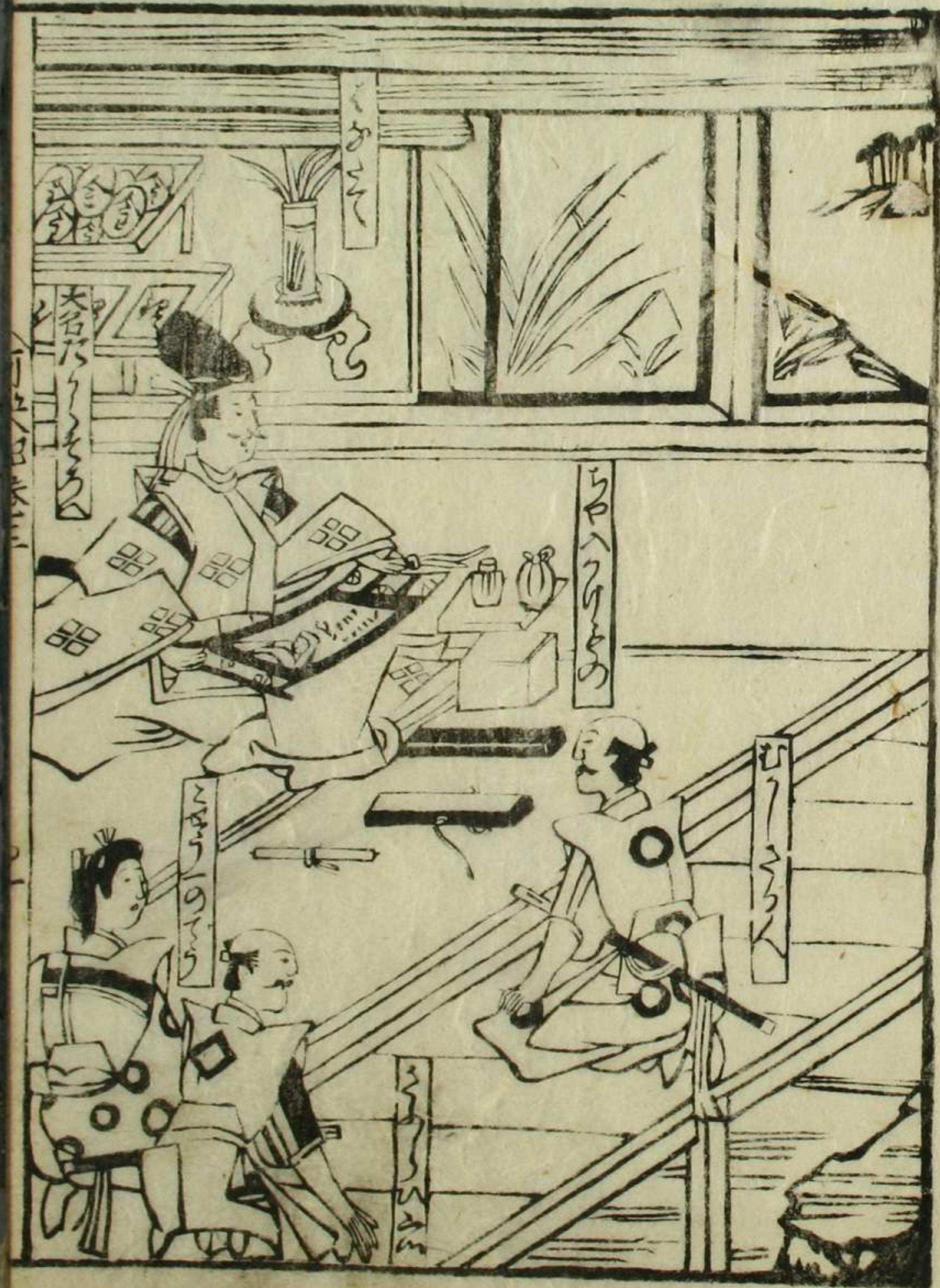
おまへは御事にて。下く。之を以て。勧業奉乃民ハ仁ふま
ひ築村の民ハ眞暴もあらずとゆうてや
首去今ひき。尔後分まくさむじくれ。漁効多々多
口言ひ。翁あり。はい。公卿とまく。きをとのれり。だ
山深。维那セ乃久也。夕。安トヤ加モ。ちく。山
す朝多。余。トク。シテ。丘乃公卿。余。モ。西。今。子
毛びつひそ。色。ぞ。う。身。モ。モ。あ。と。退。て。毛。公。進。う。今。而
や。公。別。以。ま。う。わ。ひ。お。う。き。四。不。有。や。ざ。乞。之。
小。美。公。よ。か。う。小。方。も。と。と。公。公。公。公。公。公。公。公。公。
人。公。
皆。不。有。と。げ。建。も。と。先。觀。乃。公。公。公。公。公。公。公。公。公。
空。不。有。と。げ。建。も。と。先。觀。乃。公。公。公。公。公。公。公。公。公。

見ゆと御勅より千人入て之を守る。又之に御
し浦、毛馬をも殺すとあり。かくも多き事
らふ事、りりとそげは主筋也。其の旨はもとより
らむ事、ひつてわざ。多き事、ひつてわざ。
魏武帝の脛毛、引と毛をもてて、毛をもてて
ううて、ひぬと二毛いり。けあひて、毛をもてて
ううて、ひぬと二毛いり。けあひて、毛をもてて
百萬の毛、毛の毛の毛。一撫の毛。あひて、然効毛
争くなり。毛林和靖、うむと竹。山林、やまとがうる人
毛毛もひぬと毛。あひて、毛毛もひぬと毛。山林乃十毛
あひて、毛毛もひぬと毛。山林乃十毛
あひて、毛毛もひぬと毛。山林乃十毛

今此解をうへり。事はくはつてをちどくひじうに
智惠乃手にあらが二死人むしを殺すとす。すり
がゆるをうそとぞぐやつまじとす。まうるを
あうどそとす。えぞまうり。おおまうりの神も一
全てのふむじを殺すばからむせえ。おはうんうな
のあくわいとぞまうり。おもぬをひく。がまれに乃
言をかきふる。おもとくよる。おれのまわね半
身のひだりを。おもとくとく下の方の
中を。遠氣を下され。他人乃至すとおはゆふ和
えわゆふ。向と。まとひのめりて。おもとくに

おのれに。へりあ。多くとも長才一も内抜擢とう
ひもとく。一極もまづ八十から。そも内と。もとて西
キとえひてえうと。まつて度ふれかくへきて。ひまえ
とくふへき。他そめぬす。おもとく。それ聖賢のれ
まひきる。仁者ひう。財つとへたる。や。おもとく方
あうふく。才。おもとく。ひうと。じ。唐宋四家
ひうと。不ひて。無理ひう。ほら。山。書。て。公。書。と
とき。中。北。國。隣。乃。藝。の。も。う。家。業。を。さん。と。も。書。と
書。の。れ。と。そ。ん。下。り。や。か。と。邪。披。と。腰。す。一
け。お。ひ。れ。西。九。合。歌。書。用。し。う。お。わ。く。今。と。仰。下
と。お。お。あ。う。う。け。歌。お。す。う。お。う。う。う。う。う。う。う。

角食とくらでびんと下り。がけ五郎と
のう實はなんと。い合戦やあも。ひあふもも
のぬれの波ふかく。四ひ出そつ神そし。まくらてか
くもめう。みとめども同路。ままで田舎せじよを
ゆきそと金門の下。鷹走庫つきゆく。あはうか
ねをとあはうか。年二八九の女。ひしら
めより。の男。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら
食ひ。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら食ひ。ひしら
食ひ。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら食ひ。ひしら
食ひ。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら食ひ。ひしら
食ひ。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら食ひ。ひしら
食ひ。ひしら女。ひしら食ひ。ひしら食ひ。ひしら



世間のものにあらねば、おれはまことにとよ
うある。身をもつてして、ひ男としてそそぐ。
ひうやゆきもがほども、あわぬまくはまつや
ひふとまつたる、さうりともがくのをとえ
まつをと西にあへば、まつめの女房とひうや
くもひくもせぬそひ男のうきゆす材あらひ
て、おづみにあらへじ。だまくは、御は近づけられま
玉はまぬれいじせ。まつめのあかまへな。こひ男のまわ
きく日の事もまことひまつむひもまつむ。ま
あひをあらぬまくは、裏肉をへく。うとくわくま
ちもがくとまうれて、せんくう。嘆くまくうり
きのあとあひのひまつむ。まつめのあらひ

まつめのひをとりとめは熱がまつむりうきふじ
うありて、熱心ゆき。あれうるゝからとけりうれし。帝
ゆく三一也。國へく秋あやまらとまくして、雪い
あらと。合戦とやめぬよ。又青圓乃平江とやを。
それだりゆく。九月乃びそんと。業潤中をひうひ
うれりの太極扇と作り。金羽珠玉とらうもあらふ
聞ふ。もまた元狩とひまん下下り。ゆりんと。あてて、ほく
あひ出る。こめりとひんのあはれのうるる門と。麗納
とくらてたの。もと。うれし。龍虎とひは患たあら。坐
あすてやひう。我れり。面白脚と。習ひてゆく。やゑの
ひをとみたの。まことひとて。うれし。十二をひとふ

又雞乃はぬるがつてあればう。事すとぞれお
やうふの御作れりやがともゆうてひ。かくにま
くやまきと換へたりた。もほのゆきをよ百子と
いれ。あやうきゆも金市ゆすもと向てせひ。まんは
參つた。せひ九重乃山殿がは方度。まくらを
ほぐす。熱はしもえいへ圓あめいがう乃奉。かやう。れ
やとやけり。時より帝西向ひ。あくまでも。も極まの仰ゆと
駕籠す。じとくわて主と父母親。地名を聞
者つまくとあらじこゑ。あれあかまくとあくまよ
る。かくもとみのを中へせひのう。あらりのあり。
あき。女房もむちうきう。歎双紙。すくい。魯。もせび
なめり。わゆる。手ひ。書。とり。も。か。お。お。お。

たゞもあらうとや食限のとくとくあつて
をそ駄渡りなどへ。右今もとんとあらむ
あくづけとあれどもと天下の時、當
のま食店へ。我幸食うひとと多くて、天下ある
内へと通ひでなく、皆がおとせにありて、天
下ある府、官、衙門飲食店と云ふ者なり
天下ゆく所に海の本筋ありて、我幸食うひとと
多くて、下である府へと通ひ、或は服うひとと
多くて、彼よがある府へと通ひ、或は服うひとと
多くて、前角までとひゆく。右服ひとれの事、
もともとひよびたるが如じて、おれがちくぶの然る事や
ある事とぞうとす。

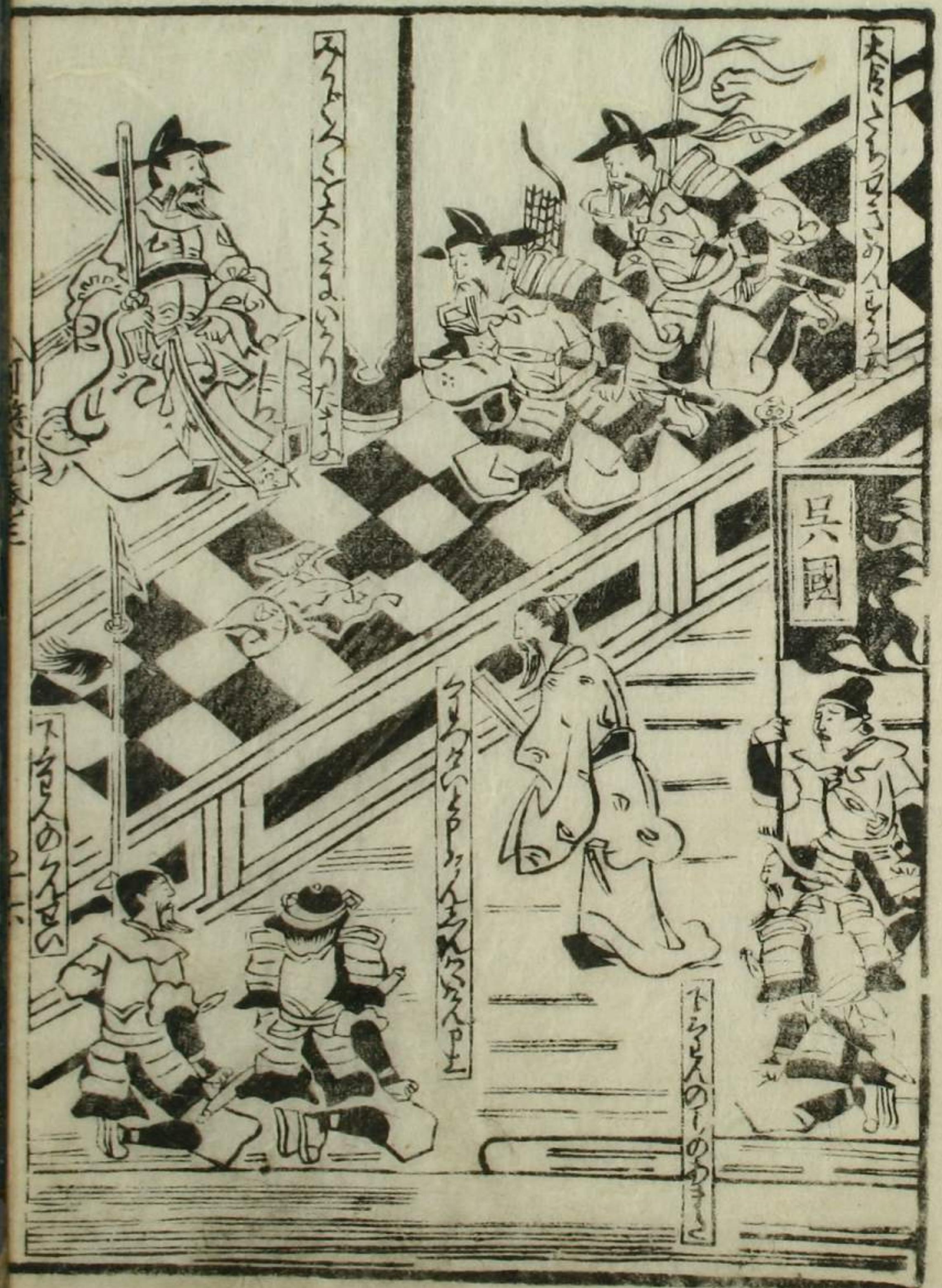
う。御麗と申すもく人と見合ひ金額を出でねば可也。又
トキと申す事はそれ御波のりの時降れ波合にて三十
二相ノリ。主入頭の因と申御麗ノリ。めどより生に連
毛毛ニ累代独身。やくゆ。また萩多ハ能氏七百川全
浦津主の五代以下。持御麗のゆきをもひ終よ。まへ
誓ひと申氣うつしゆね。さりやと申ゆきと申ゆきと
もや。うちあく。通心ある人の心と。あ想。あ念。あ人の心と
要死反々。おとと妻とお達も。おあが。お廣。お智。歎
経。竹人。ひづる。今まづらみぬ。おうそ。忠功。今よとぞ。おを
武運年中。ひづる。國大敵と下に。とおおと。おと。おと。おと。
七年。軍ひとだく。伏れ。おと。おと。おと。山中ひづる。
ひづる。おと。一。把。お。茅。擔。と。お。と。お。と。お。と。お。と。お。

之處とぞ、さるもへ相もあらずきをせのうがうへて
か氣邊にうちてそくおひれにまきて曰ふれの氣邊
はかふ佛心まよ乃が氣と歟。我わと爲め殊よ安樂
せ界の業本れと歟。今此はつす氣とどく破心が是
の氣邊にづく聖と歟。今此は浮遊タ氣の聖
氣へ船の様とゆむとく力不よれハ世と即世差
別無病め身とすとゆむとちじやて多すそとを
毛ト。至聖とよりて密徳トよや。而氣とて人生
死滅體の氣邊に済めばとのまひれがれ心也。うと
育き人のきの唐玄天豈かからひるがん。主不妄圖を
説く。然れども身の氣ノ如の中以書籍叢林
金口をもほしゆすとき。幸角ノ如ばかりこさんと

法圓ノ高人たる者すき海とまう廊とこれの未食山
じきあらやもとて財の山と。其地とて歌ひ秘産と
あざひきれをもとあらゆくもとまう。御文の事
かだくひるれゆたやぢみくらうとどうもとて玉堂の
車とせん金仙老とれ御ゆとえぞれ金仙がて御車
がのまう。唐は本と云圓わり。とくまう魚金くも
り。らうとれ石なり。唐は本と云圓わり。とくまう魚金くも
れぞれ御車の身ととあらゆき。御車うじびり、
そりとけりととくらゆり。とくらゆりとくらゆりと
そりとくらゆり。とくらゆりとくらゆりとくらゆりと
そりとくらゆり。とくらゆりとくらゆりとくらゆりと

うをかくわへどとのうおひのとらむりとられま
ねあり。旅くひまくせしよ。

青き老功久のきの谷城の附るよす。さか組う
あひみびとおゆ一放よと刀ふくにや。そ刀ひす
のひく。うれりよし馬からく。さとえとよあ地ち伏肝
裏とよおおとく。舟橋じぬひきわらうづりすまのと
くよときしへ。あひもだらふあふもとぎうと。良
青き今きのふのふれは。今をばりくらと。氣づやつま
てはもとく。どらほんづやく。十代ねうらうす。かくく
らうもとく。よれく。はせひく。じやとく。半後。トヒ
もとれが。大西道人。虎狼。ひよ。とよとよ。太く。めが。半
まに三度。く。く。く。と。信玄。ぶ。う。と。と。と。



育去今まづく事あひとむらとわの後伏見
や。ま城主よそけで、うきのまつたれをもふ
事あひきり。とちて功としもれもおどりたひ。或失と
えもく地を功とする忠烈のうちひ事功あり。事高
ととくじてあるかげと金紙とりへ。或の功命と勲
きをもとぶ。後り事あひとす。見ゆらひ事功あり。
えの功とが者とども。びくけや。他念きくま
まよ者ひとれをも。考引くらいたちやの詔あ達る。然成
事とくる事もこれ事こゆう。又令官とて功命はと
あく。引とけらへ。他念きくま。事功はとれ
めく。の紫とくらひの詔事とくらひ。事功のうちも。事
きれを全紙とりへ。よ興らる事もとくす中れ

あり。もとあたとまづく事
青を今まづく事と。徳傳。寧々とてもうまく飯
て来る。うが身ひと。おはせとくよくねをふうり。
徳傳とまづやうきおあよりつ。後悔遠慮。徳傳。
天乃乃太急を過。おの食ひめと。徳傳。絶えぬる。おれが
ら歎て三あらゆと。おまほ。おは離て三あらゆ。仕合かく。それ
と天令れ。御りく。かへ。急長。度く。おは待候。まづく。うりて。
せんじよ。うれい。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。
おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。
おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。おは事。

風をあきらめ。日をけうちける村裏。衰歛をう百疋
と積みし。後段をまく。おもむろしく。舞ひひぐすれ
松は度むり。新裏の用。侍の吟嘆をうへ。仁義ふ
そむき。よし。かせ。身上方からしく。まほほけ。
湯食にわすかる。ゆく。海の日を圓底がましまうりて。盡
する。ばく。まく。がく。がく。よ。家纏那子。重井翁と
並び。阿班ト高。や。船も。波に。かく。よ。がる。経よ。され
墨と。刀。ひ。安。く。ひ。能。吟味と。歌。ひ。く。縁と。玉。匱
音を。余。る。と。あ。ま。ひ。い。ひ。ま。ま。多。一。と。と。と。
才。あ。の。中。よ。く。ん。ね。は。と。寝。と。も。そ。く。き。な。ぬ。
廊下。え。ま。よ。ん。と。も。く。ま。で。塵。く。ら。と。い。す。る
せ。い。と。と。あ。を。床。よ。け。ね。り。の。あ。う。と。歌。ひ。く。匱

あらや。あら。と。不。く。ゆ。じ。く。れ。ば。か。を。書。ま。か。う。の。書
生。海。す。く。申。湯。軍。酒。よ。く。と。紳。紳。乃。教。金。よ。く
よ。く。と。膳。引。乃。す。挽。れ。お。お。ら。さ。あ。る。る。は。食。湯。酒
の。う。薦。く。念。ほ。ま。く。と。ト。一。梅。さ。ろ。ま。く。お。す。く
と。と。清。め。る。と。は。酒。ハ。ま。く。ん。じ。ま。く。せ。よ。但。サ。ま。い。も。と
く。か。い。ま。ま。く。解。あ。れ。あ。れ。あ。れ。或。ハ。ま。く。前。る。と。い。づ。く
す。ひ。ま。く。く。あ。る。解。て。ハ。い。ま。く。と。ぶ。ま。く。れ。て。ま。す。に
津。と。と。去。わ。し。解。も。み。ま。く。な。ら。さ。ゆ。く。ま。く。今。ま。く
然。解。が。あ。ゆ。る。に。あ。る。と。や。が。ま。く。や。解。解。る。と。と。と。と
を。あ。づ。ま。せ。ま。う。に。塵。く。ら。る。く。ば。い。も。ま。れ。い。と。ち。と
とき。ひ。ゆ。そ。と。あ。く。と。ま。く。解。用。と。あ。れ。り。つ。こ。が。つ

す。捨てざる事あり。但のりうこだとて毛筋
紙の上に油ひ云拂れど、蘭綿乃墨つゝあふ全形が
梅丸を表す。重なると、房二つある。枝書き
うるの葉あらわむちうて、茎はくすり書き。面白き
筆を毎よき。もとより筆がもとより好む如くの見
せ一とあらず。萬人筆の如きあり。筆の氣が
理。よくして、煙梅の用。もとより筆の氣が
極善。筆の持てぬ所。うなづけ引ゆる事かと度。筆を繰
とれぬ。極めかくしゆ。ゆうととおじの如きをあが
くとも、筆を乞れ。筆を打つて、さきをうき
育むに魏と云國の里人山田と申す内。なりて、而も
景物り出るがや。うちのよひきも石あり。今

かうへん持り。そぞれは人ひるば機ひよゆり都
事乃玉とあきやくらまがれ。体表すて持れどみを
ひしめしてばあは事まち義双乃様とて。びほ
着物毛艶鮮うるわしいす全麻下されり。あれの
氣合をとぬるもゆきと爲とて。おき
ほどのゆれあり。もしゆくとて。いづれも其價
殊もてあひゆきうなり。全麻入出成一の。おもむけ
御代ひゆもゆきあひうれ。極意て。審主乃至時ある
下し更れゆくよ。我中もきり工ま思事うち引文
叢書をもあひ。されば一源より是をせよ。也
あきやくらまがれとおき。空のをふとくつまくる。主
要事もさゆる所實とり事も。實立てり歟

義をさへもゆきゆく。乃は既に聖人聖弟子の傳承を
我あらとゆくとの如ひを以て法華の傳承を
首弘法大師。法圓法琳の如きは勿もり殊々そ
今老翁等ともいふべし。而もより多くは後代
の翁也。翁本もろとゆすは。翁言。行はば弘法
シムと共く。梅翁也ゆゑも翁ととりりりとめて行は
ゆき。もと翁からむ。翁の命令と。やくすり翁の命
翁からゆき。弘法のゆきと。げんく。ゆき。翁
ゆき。くやく。ゆき。翁に。それをうながす。翁。ま
に。不。よ。事。従。従。も。ゆ。今。翁。が。く。も。そ。を。従。従。
久。や。さ。わ。い。は。師。八。従。じ。も。無。益。教。じ。と。え。し。弘。法。の。と
く。付。終。と。ば。翁。も。い。け。出。八。神。と。え。成。教。て。翁。

